

海づくり大会の回遊旗
回遊魚と一緒に遡上!

6月12日(土)・13日(日)に岐阜県で開催される、第30回全国豊かな海づくり大会の回遊旗リレーが、揖斐川の下流から上流へ向けてスタートしました。

昨年10月に、揖斐川町を出発したリレーは、回遊魚をイメージし、揖斐川最下流域の桑名市までの流域市町をめぐり、再び上流域へ戻ってくるもので、4月14日(水)に揖斐川町へ到着します。

6月12日(土)には、揖斐川町では、海づくり大会のサテライト会場として、子どもたちによる発表や鮎の放流などを行い、豊かな海は、豊かな森と川がはぐくんでいることを全国に向けて発信します。



▲昨年10月に行われた回遊旗リレー出発式(徳山ダムサイト公園)

町内産の食材を子どもたちに
安全で安心な給食を!



▲小寺さんからヨモギパンの説明を聴く児童たち

1月25日(月)、春日小学校で、学校給食会が行われました。町では、町内産の安全で安心な食材を積極的に取り入れることとしており、この日は、町内産のヨモギを使ったパンと町内で育った豚のソーセージが献立に登場しました。

春日小学校の全校児童41人が、食材提供者の小寺春樹さん(春日川合)と森本朋弘さん(北方)から食材についての説明を聴き、一緒に給食を食べながら楽しそうに交流していました。

文化財を守る
文化財防火訓練開催!



▲本堂前で一斉放水が行われました

1月26日の「文化財防火デー」を前に、貴重な文化財を火災などの災害から守るための文化財防火訓練が、1月24日(日)、遍光寺周辺(春日六合)で行われました。

遍光寺の本堂から出火した想定で行われた訓練は、女性防火クラブや地域住民の皆さんによる初期消火活動、消防組合、消防団による消火活動などが迅速に行われ、適切な消火活動と防火対策が強化されたほか、地域ぐるみの文化財愛護思想の高揚が図られました。



▲試食会の様子(揖斐川町学校給食センターにて)

また、1月26日(火)には、町内産の大豆を使った「蒸し大豆」が、初めて給食に供給されました。これは、町内産の大豆を蒸し大豆として給食に提供しようと取り組んでいる町内の3つの農業団体が、昨年9月から出荷形態を統一するための研修会を行うなどして実現したものです。

この日は、農業団体のメンバーが集まり、揖斐川町学校給食センターで、その試食会が行われ、この日の献立に登場した蒸し大豆を味わい、その出来栄などについて話し合っていました。

中学生が学校について提言
中学生教育委員会開催

1月6日(水)、中央公民館で揖斐川町中学生教育委員会が開催されました。

この取組みは、目指すべき中学生の姿を示した中学生憲章の具現化に向け、各学校が実践している活動を発表し合い情報交換を行うもので、町内6つの中学2年生21人と、町の教育委員や教諭などおよそ40人が参加しました。会議は、揖斐川中学校の高橋和宏^{たかはし かずひろ}さんを議長に、誇りにしていることや課題の残る項目について、各学校から発表がありました。また、授業に対する願いや教育委員会への質問や要望などの発言もありました。

参加した生徒たちは、互いの活動に学び合い、自分たちの学校生活を充実させようと決意を新たにしています。



▲学校での活動を発表する生徒たち

ふるさとを離れ 学んだよ！
中学生アメリカ研修派遣

町内の中学2年生の代表15人が、1月21日(木)から29日(金)まで、セントジョージ市(アメリカ)で研修を行いました。

派遣団の皆さんは、セントジョージ市でホームステイし、アメリカ人の家庭の温かさに触れました。スノーキャニオン・ミドルスクールとデザートヒルズ・ミドルスクールの学校訪問では、文化交流会が行われ、日本や揖斐川町の自然・歴史・文化・学校生活などを紹介しました。



▲スライドを使って揖斐川町の自然や文化などを紹介しました

また、デイクシー・ミドルスクールでは、授業中の教室に訪問して、全員が自己紹介を行いました。

セントジョージ市に滞在する最後の夜、さよならパーティーが行われ、楽器演奏や書道、よきこい踊りなどの日本文化を英語で紹介すると、ホ

ストファミリーの皆さんは、興味深そうに参加していました。最後に、「翼をください」を派遣団員が日本語で歌ったあと、参加した皆さんと一緒に英語でも歌いました。



▲ピアノ伴奏に合わせて、ポニョの踊りを披露しました。

翌朝、スノーキャニオン・ミドルスクールでお別れの挨拶をし、共に過ごした現地の生徒たちとの別れを惜しんでいました。

派遣団の皆さんが今回の経験を生き生きと語ることが期待されています。家族や学校で今まで以上に活躍されることを期待しています。



▲ザイオン国立公園で現地の生徒と一緒に記念撮影

無事故で6000日達成！
春日小学校



▲交通安全の抱負を発表する児童たち

2月1日(月)、春日小学校体育館で、春日小学校交通安全無事故6000日達成記念式が行われました。

式典では、春日小学校の児童が16年以上無事故であったことに対し、表彰状が伝達されたほか、児童代表6人が、「飛び出しは絶対にしません。交通ルールを守り、7000日を目指します。」などの抱負を話しました。

これからも、交通安全に気をつけましょう。

地域での特別支援教育関係機関が
情報共有で連携強化！

地域における特別支援教育の情報共有と関係機関の連携強化を目指して、1月30日(土)、揖斐厚生病院で、揖斐川町特別支援教育フォーラムが行われました。

この日は、医療機関や町の支援施設、学校関係者からおおよそ70人が参加し、それぞれの現場における取り組みや、今後の課題などが発表されたほか、「関係機関や地域との連携」をテーマとした講義がありました。

揖斐川町特別支援教育フォーラム推進委員会のメンバーで、発起人の揖斐厚生病院の言語聴覚士 立木一美先生は、「病院・学校・地域が連携を深め、一貫した支援を継続することが必要です。」と話していました。



▲発表の内容を熱心に聴く関係者たち

生活習慣病予防のために
講習会が行われました！



▲食事バランスガイドの説明の様子

1月28日(木)から2月25日(木)にかけて、生活習慣病の予防のための講習会が行われました。

生活習慣病とは、毎日の悪い生活習慣の積み重ねによって引き起こされ、日本人の死亡原因の7割近くを占めています。

1月28日(木)に揖斐公民館で行われた講習会には、おおよそ20人が参加しました。講習会は、生活習慣病の予防と改善のための食事バランスガイドやメタボリックシンドロームについて説明があったほか、食生活を改善する料理教室も行われ、参加者された皆さんは、熱心に受講していました。

町の特産品で商品開発
商工会女性部が発案！

商工会女性部が昨年度から取り組んでいる、町の特産品開発に向けた勉強会で、しいたけを使った商品開発が発案され、谷汲名札に工場がある、だるま堂製菓へ菓子作りを提案し商品化されました。今回商品化されたのは、谷汲産のしいたけを使つたせんべいで、2月1日(月)には、商工会女性部の皆さんが役場を訪れ、宗宮町長へ商品化を報告しました。

宗宮町長は、「町内には、特産品開発につながる魅力ある資源が豊富にあります。今後も特産品開発のアイデアを出し、販売できる仕組みを検討して欲しい。」と話していました。



▲しいたけせんべいをPRする女性部の皆さん

鬼は外！福は内！
谷汲山で節分祭！



▲仁王門前で行われた豆まきの様子

2月3日(水)、谷汲山華厳寺で、社団法人谷汲観光協会主催の節分祭が行われました。

この日は、平日にもかかわらずおおよそ3000人の観光客が集まりました。

仁王門に設置された赤鬼をバックに、家内安全、無病息災などを願ひ福豆がまかれると、豆を手にしようと訪れた観光客の熱気で溢れていました。

会場内では、甘酒無料サービスも行われ、この温かいおもてなしに、訪れた観光客の笑顔がこぼれていました。



▲創作劇の様子(谷汲小学校体育館)

1月14日(木)、人権問題について考えてもらおうと、揖斐川町人権擁護委員と谷汲地域の文化サークル「ほのぼの会」が連携し、創作劇による人権啓発活動が、谷汲小学校で行われました。

今回、上演されたのはアンデルセンの「醜いアヒルの子」で、谷汲小学校の全校集会で児童とその保護者の皆さんが鑑賞しました。この創作劇は、衣装や小道具が、ほのぼの会の皆さんの手作りで、脚本も自前で作成されています。

このような取組みが、人権について改めて考え直す機会につながっています。

人権擁護委員とほのぼの会が
創作劇で人権啓発!

岐阜県地球温暖化防止活動推進センター主催の木の国・山の国わく環くコンテスト2009で奨励賞を受賞した、財団法人いびがわの生命の水と森の活動センターの成瀬富士一さんが、1月12日(火)、揖斐川町役場へ報告に訪れました。

このコンテストは、地域が一体となつて取り組んでいる活動事例を集め、地球温暖化防止を推進するもので、同センターが行う徳山ダム上流域の清掃活動やパトロール、間伐材を活用した環境教育などの取組みが評価され、受賞につながりました。

皆さんも、地球温暖化防止につながる植樹活動や環境学習に参加してみませんか。



▲受賞を報告する成瀬さん(写真右)

植樹などで地球温暖化防止に
いびがわが奨励賞



▲表彰受賞おめでとうございます

この度、ぎふ・エコライフ推進プロジェクトに取り組む西濃環境NPOネットワークが、第10回中部の未来創造大賞の特別賞(中部経済連合会賞)を受賞されました。

この取組みは、協力店でマイバッグやマイはしを使うなどの環境に優しい行動をすると、ポイントが貯まり、天然せっけんなどと交換できるもので、平成19年11月から行われています。

西濃環境NPOネットワークの村賀久会長は、「これまででは、西濃地域を中心に活動してきたが、県全体に広がっていききたい。」と話していました。

エコライフ推進プロジェクトで
中部未来創造大賞特別賞

この度、桑原隆一さん(脛永)が、法務大臣より感謝状を授与され、1月19日(火)に、岐阜地方法務局大垣支局の西澤法久支局長から感謝状が伝達されました。

桑原さんは、人権擁護委員として9年間、地域の皆さんの人権を守るために努めてこられました。長い間お疲れさまでした。

また、後任として森川誠さん(脛永)が人権擁護委員として就任され、委嘱状が手渡されました。



▲桑原さん(写真右)と森川さん(写真左)

人権擁護委員交代
桑原さんに感謝状!